

(資料2)

社会福祉援助技術演習シラバス (抜粋)

演習の目的：原則として、4年次の社会福祉援助技術現場実習および社会福祉学実習を行う学生を対象として、実習に向けた準備学習を行うことを目的とする。春学期は、ケースワークの原則についての学習と、様々なワークを通じての自己覚知を行うことが中心となる。秋学期は、具体的な実習先決定に向けての作業、学習を行い、現場実習に必要な知識やスキルについての理解を深める。

演習の日程と内容：

- 1 オリエンテーション
1年間の演習クラスの目的、内容、評価方法など全体像をつかんでもらい、クラスに対する心構えを持ってもらう
- 2 アイスブレイクとグループ分け
1年間を共に過ごすクラスメイトと横のつながりをつくるきっかけを作り、今後のワークなどでかかわり合うこと、相互学習・学習交換の意味を意識する
- 3 ケースワークの原則1 講義 ワーク1：小さな冒険
講義の中でも、学生一人一人の体験に照らし合わせた学びができるように心掛ける。ワーク1は、人と少し違う役割をとる者を募るというシンプルなワークを通じて、主体的・自発的に物事にかかわることの意味を体験する
- 4 ワーク2：自分と出会う(1) 私のPIづくり
自己覚知の第1歩として20答法を用いて自分自身について自分の言葉で表現してみる
- 5 ケースワークの原則1 テスト ケースワークの原則2・3 講義
- 6 ワーク3：自分と出会う(2) エゴグラム
私のPIづくりが主観的な自己表現だったのに対して、今回は標準化されたテストを利用して自分の性格や行動の傾向についてふりかえる
- 7 ケースワークの原則2・3 テスト ケースワークの原則4・5 講義
- 8 ワーク4：自分と出会う(3) こう見る見られている
自分を知るためには人のかかわりを抜きにはできない。人の目を通じた自分の在り方をワークを通じて他者から知らせてもらう
- 9 ケースワークの原則4・5 テスト ケースワークの原則6・7 講義
ワーク5：私の秘密
原則7の秘密保持に関して、自らの秘密を密封した封筒をクラスメイトの誰かに預け、また人の秘密の封筒を預かる
- 10 ワーク6：自分と出会う(4) 自己開示のワーク
自分のことを自分の言葉で語るというワークを通じて、ジョハリの窓として示されている自己開示とフィードバックによって開放の領域が広がることの意味を体験する
- 11 ケースワークの原則6・7 テスト ワーク5
ふりかえり
2週間人に秘密を預け、人の秘密を預かっていた体験についてのふりかえりを行う
- 12 春学期ふりかえり 評価 ワーク7：DEAR ME LETTER
春学期に体験したことをふりかえり、わかちあう。更に、3カ月後の自分に向けた手紙を書き春学期での学びをその場限りのものとしなないようにする。